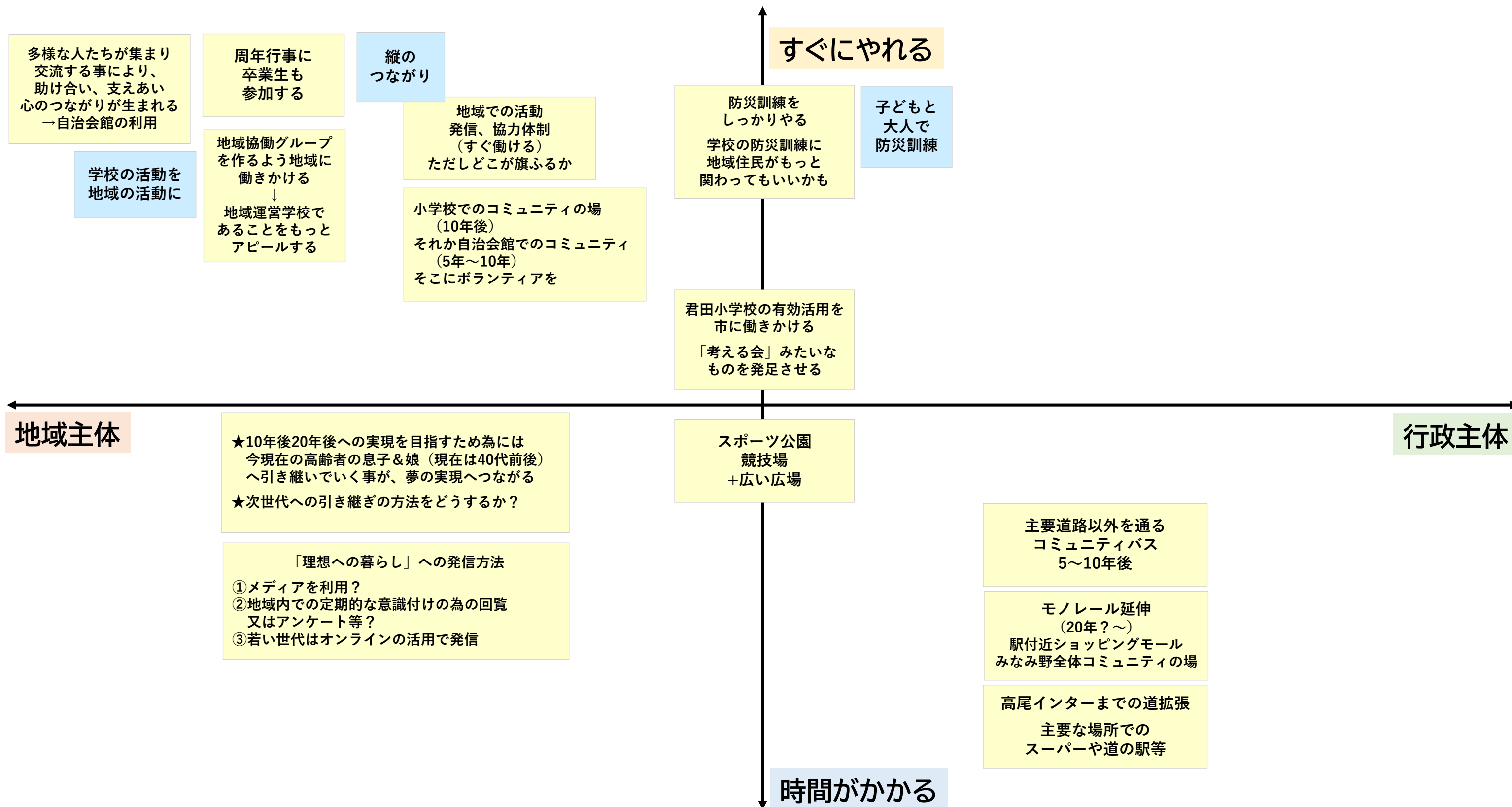


## ありたい姿

七国の人々がゆるやかにつながれるまち  
子ども、お年寄り、現役世代、外国人、障害者、大学生、LGBT

## 想い

既存の施設である学校等の活用を軸に、七国に住む子ども、お年寄り、現役世代、外国人、障害者、大学生、LGBT など多世代、多様な人たちがゆるやかにつながれるまちを目指したい



利便性のためのインフラ

バスの本数を増やす

モノレール延伸

人が集えるショッピングモール

安心・安全のためのインフラ

安心に通行できる様、全ての道の街灯を適切に設置

夜暗い場所減らしたい

行動する

・農園ボランティア  
・放課後見守りボランティア（放課後子ども教室とは別）  
・子ども会

あいさつ等声かけをする

小学校や中学校の教育活動を支える地域ボランティアグループの創設

行動が必要

連帯感が生まれるような何かを始める

見守り役

自然との共存

豊かな心

コミュニティのたまり場

自治会館の適切な利用

地区でのコミュニティ場（子から老人まで）

新しいコミュニティの場所

街の中心に市民が集えるコミュニティセンターを作る（分館では七国の住民の数に対して十分な広さではない）

集まる場所

大学生が教える

地元の小中学校を活用する

地域と学校との関わりを強く

学校の活用

住民が学校に入るのは難しい

多世代交流

（子供達とお年寄り）年代を超えた交流が出来る場の提供  
例）小学校放課後の時間帯の活用

大学の多い八王子としての近隣の大学と地域の交流

子供が遊べる環境

玄関の前でボール遊び出来ない時代

ボールを自由に使える場所

ひみつ基地

子供がのびのび